

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 40 号

平成30年8月1日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

馬
酔
木

秋田市退職校長会 会長 佐藤 俊彦

○ 厳しい低温が続いた今年の春

馬酔木（アセビ）は、日本特産の常緑の低木である。万葉集にも詠まれた樹木で、古くから庭木や盆栽などに用いられて、親しまれてきた。

我が家の庭にも一本あるのだが、今年のアセビの開花は遅かった。例年であれば、三月の末に冬囲いを解いた時点で、もう花が咲いているのが常であったが、低温が続いたため、四月に入っても咲かなかった。我が家で一番初めに咲くアセビの花が、ようやくスズランのような白く可憐な花を咲かせ始めたのは、中旬になってからであった。

桜などの花木の多くは、前年の夏過ぎに花芽を形成し、蕾のまま休眠して冬を越す。そして十分に低温刺激をうけた後、気温が高まった時に休眠から目覚める。これを「休眠打破」と言うのだそう。きれいな花を咲かせるためには、厳しい冬の試験を経験することが必須の条件なのだ。

○ 秋田の教師にも冬の厳しい試験があった

秋田県の学力問題にも、厳しい冬の季節があった。五十数年前には全国の最下位であった。当時の教師たちはどんな思いで教壇に立っていたのだろうか。しかし、厳しい冬の季節であると気付いてから、秋田の教師たちの努力は素晴らしかった。

教科研究会は、全県単位の研修会はもちろんのこと、積極的に東北大会や全国大会を受け入れ、文部省視学官や教科調査官、有意な実践を重ねて

いる著名な大学教授などを、研究会の指導者として秋田に招聘した。大会の授業公開校にはたくさん教師が集まり、講話を聴き、研究協議会では激論を交わした。そこには、もうすでに日本一の授業研究会が存在していたのである。

一方、秋田市教委は、昭和二十八年度から「指定校制度」を開始。教科や教科外の内容で、一年から三年の研究指定をして、最終年度は公開研究会によって、広く市内の教員に授業を公開し、研究成果の共有化を図った。秋の一日、指定校以外は休校とし、市内の教師たちは、三校ぐらいの指定校に分散して、研究協議会に参加したのである。

○ 秋田の教師たちは「学習する組織」だった

指定校の教師たちは、一丸となって授業を練り上げた。単元全体を研究対象とし、授業設計から評価まで、子どもたちの学びを意図的にセットした。教師集団が、ひとつの目的に向かって、力を合わせて創意工夫を繰り返し、学習の確かさを求めて切磋琢磨し合ったのである。まさに、「授業力」は授業で培われることの実証である。

秋田の教師たちは、昭和五十年代後半には、もうすでに**秋田型探求学習**という美しい花を開花させ始めていたのである。「休眠打破」であった。

◆ アセビの花言葉は「献身」。全国的に自生するツツジ科の樹木。馬が食すると、酔ったように足がふらつくほどの毒があるらしい。

総会

四月二十八日
協働大町ビル

初めにご逝去された方々に黙とうをささげ、本会のためにご尽力いただいたことに感謝した。

○千葉会長より、昨年度は、活動の重点として会員相互の親睦と生涯学習の充実、現職校長会や教育諸団体との連携協力、県の事業への積極的な参加に努めてきたこと。特に、会員相互



千葉昭会長のあいさつ

の親睦を図るための楽しい研修として、各駅停車の旅や酒蔵探訪、音楽の集い、また赤レンガ郷土館の行事にも参加した。とても好評だった。また、現職退職校長会懇談会では全国学力テストで十年連続トップクラス、その秋田県の要因である学校力、教師力のさらなる向上に向けて、これまで培ってきた教育力をどのようにつなげ発展させていくか、退職校長会、現職の校長や先生方にはアンケート調査をしながら、いろいろなデータを基に話し合いをもつことができた。非常に有意義な教育懇談会となった。この研修結果が生かされることを楽しみにしている。また、今年十月に秋田市のビュ

ホテルで開催される「東北地区退職校長会協議会秋田大会」に、会員の皆様のご支援と協力を切にお願いしたいとお話があった。

○来賓の秋田市教育委員会嶋崎公人教育次長からは、長寿社会における生き方を提唱したイギリスのリンダ・グラットン『ライフシフト』は、社会に大きなインパクトを与えており、政府が「人生百年時代構想会議」を設置する契機となったと言われている。この『ライフシフト』の中でグラットンとは、「人生においてはこれまで経験したことのない状況を前向きに受け入れること、人間ならではのスキルを磨くこと、他者と共感する能力をもつこと」などの重要性を説いている。時の変化や未知の変化を受け入れながらも、いつの時代においても大切なことは何かを見抜き、周囲の人たちと共同して新たな価値や真の豊かさを創り出そうとする生き方は、新しい学習指導要領により子どもたちに育成しようとしている資質能力と基を一にするもの。本質を見失うことなく、人間性豊かで自らの志に向かって力強く生きる子どもたちを育むことができるよう各学校を支援してまいりたいとお話があった。

○中学校長会石郷岡仁司副会長からは、現在学校現場でクリアしなければならない課題はたくさんある。不登校生徒の増加、特別な支援が必要な子どもたち、新学習指導要領への対応、部活動の在り方の問題など、多忙化防止と連動して早急に取り組まなければならない。また、スマートフォンなどの急激な普及でネットトラブルや健康被害の増加、学習への影響など、これらの課題を解決するために、校長が高い志をもって前進していかなければならないと思っている。

これまで秋田市の教育に尽力いただいた退職校長会の皆様から、様々な場面で学校や子どもたちへのお力添えをお願いしたいとお話があった。

○その後、叙勲・賀詞受賞者の紹介と、新入会員の紹介があった。

○議事は佐藤和夫氏の進行で、昨年度の会務報告、監査報告（柏谷昭彦監事）、決算、今年度の事業計画、予算が承認された。役員改選（平成三十年から二年任期）については事務局案が提案され、満場の拍手で承認され、事務局員と幹事については、後ほど新会長から委嘱される旨の説明があった。

○この後、千葉昭会長と新会長の佐藤俊彦氏より新旧役員あいさつがあった。佐藤新会長からは、皆さんのご支援を受けながら期待に応えられるよう頑張っていきたいとの決意表明があった。

○その他として、県事務局から十月十八日と十九日に開催される東北地区退職校長会協議会秋田大会についての説明があった。これまでの大会では、一日目に研修、二日目には朝食を食べて解散だったが、秋田大会では二日目の午前中情報交換会ももちたいと考えている。昨年の大会では、秋田の発表を受けて「秋田の学力がなぜ高いのか」といったことについて、他県の興味・関心が高かったこともあり、各県の抱えているいろいろな課題について話し合う予定である。実質一日半の大会としたい。また、幹事会の交通費については県事務局から幹事手当という形で充当しているという話があった。引き続き、和やかな中にも笑顔あふれる懇談会が催された。

平成二十九年 度 会 務 報 告

月 日	事 項
四・七	第一回幹事会
八	平成二十九年 度市総会準備 市会報・掬水編集会議
一三	第二回幹事会
二〇	市監査 総会資料準備
二九	理事会（午前） 総会（午後） 来賓二名 一般会員三十名 講演会 佐野元彦氏 佐野フアーマシー会長 懇親会 県理事会・総会・懇親会 第三回幹事会 郡市会長、事務局長合同会議 掬水第三十八号発行 「楽しい研修」案内発送 ①各駅停車の旅をしよう 二十九年八月二十七日 ②赤れんが郷土館『和綴じ製本講座』 三十年二月七日 ③水と風のような管楽器の調べ 三十年二月十日 ④酒造探訪『天の戸の魅力』 三十年二月十六日 八・三〇 第四回幹事会 九・三〇 第五回幹事会

十・二一 第三十九回秋季研修大会
一・一一 第二十五回
現職退職校長会合同教育懇談会
【学校経営の活性化】

一・一八 第六回幹事会

一・二一 第七回幹事会

三・三一 新会員の入会勧誘

三・二三 新会員予定者へ入会案内発送

二九 平成三十年 度総会案内発送
掬水第三十九号発行
第八回幹事会

平成三十年 度 事 業 計 画

◎活動の重点

(一) 会員相互の親睦と福利厚生

(二) 生涯学習の充実推進

(三) 現職校長会、
教育関係諸団体との連携協力

(四) 県事業への積極的参加

◎事業計画

一 幹事会 年八回

二 監査 四月十九日（木）

三 理事会・総会 四月二十八日（土）

四 楽しい研修①⑤ 六月～二月
・各駅停車のたび

・酒蔵「天の戸」探訪

・スロージョギング

・ワンコインコンサート（アトリオン）
・工芸講座（赤れんが郷土館）

五 第二十六回
現職退職校長会合同教育懇談会
十一月十日（土） 午後二時

六 新入会員の勧誘 一月三十一日（木）

七 会報「掬水」の発行、配布
年二回 八月（四十号） 三月（四一号）

八 叙位叙勲 随時対応

九 慶弔 随時対応

◎兼・東北・全国

一 県退職校長会総会
平成三十年五月十日（木）

二 第四十六回東北地区退職校長会協議会
秋田大会（兼）第四十回県秋季研修大会
十月十八日（木）～十九日（金）

三 全連退会報配布

秋田市退職校長会入会者

（敬称略）

佐藤 淳（秋田東中） 相澤 孝一（土崎中）

刈田 茂（御野場中） 中島眞里子（土崎南小）

後藤由美子（下浜小） 平塚 和博（保戸野小）

平成三十年度 秋田市退職校長会役員

顧問	佐藤 重義	千葉 昭
会長	佐藤 俊彦	
副会長	高橋 一郎	佐川 眞理
監事	柏谷 昭彦	三森 洋子
県理事	佐川 眞理(菅)	加藤豪之助
理事	伊東 徹	羽川 誠
	濱田 眞	大野 進
	齊藤 孝雄	高田 均
代議員	眞井田恭雄	羽川 誠
	林崎 勝	濱田 眞
	齊藤 孝雄	高田 均
事務局長	加賀美俊一	
副事務局長	松田 行正	
幹事	長澤 公生	三條 正弘
	鶴田 悦子	加賀谷宗篤
	伊藤 栄二	大山 重幸
	米澤 喜彦	鎌田 寿和
	高橋ゆり子	阿部 英子
	藤原 茂	杉沼 誠
	平塚 和博	佐藤 淳

講演要旨

演題

『秋田大学教職大学院の紹介と秋田大学大学院 教育学研究科教職実践専攻教員研修について』

秋田大学教職大学院教育研究科

特別教授 廣嶋 徹氏

大学の授業は、自分より40歳若い人たちが相手だが、ここは先輩の方々が相手に学習集団の質としてはきわめて扱いにくい集団になっている。退屈な話はできないという辛さを感じながら進めていかなければ。

はじめに教職大学院について、教職大学院では大きく3つの力を育成している。

○学校マネジメント・協働力

：学校を適切にマネジメントし、同僚と協働することにより、学校が抱える課題を発見し、その解決に向けた取り組みを実行できる能力

○カリキュラム・授業デザイン力

：各教科にとどまらず、外国語活動、総合的な学習の時間を含めて総合的、実践的にカリキュラムを開発し、授業をデザインする能力
○成長発達サポート力

：発達障害など、種々の障害及び発達上の課題に対応する学級経営、生徒指導、教育・発達相談に関わる能力である。



そのために3つのコースがある。学校マネジメントコースは原則教頭選考合格とする。教頭選考合格した方が対象で今年度は6名。カリキュラム・授業開発コースは秋田大学または他大学を卒業した方や、現職教員もいる。発達・教育特別支援コースも同様に学部卒院生と現職教員院生がいる。カリキュラムについては、コース科目(12単位)、共通科目(20単位)、実習科目(10単位)と省察科目(4単位)の4つとなっている。

コース科目の中で私が関わっているのは、「ふるさと秋田のキャリア教育」「秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価」「学校情報の管理と運営」「学校経営をめぐる法と判例」。共通科目では「ICTを活用した教育の実践と課題」「児童生徒指導の理論と実践」「学校危機管理の現状と課題」。実習科目では「教職実践関係」と「教職実践インターシップ関係」になる。省察科目は、いわゆるリフレクション。車の用語「リフレクター」と同じで、鏡のように反射する。簡単に言えばそれまでやってきたことの振り返りをするということ。「ストマス」とはストリートマスターのこと。大学を卒業してそのまま大学院に進んできた学生のことなど、大学の用語にはわかりにくいものがある。学生たちは本当にわかって使っているのかと、拳を握りしめることさえある。

「教授会の後にFDをやる」と言われて、FD：フロッピーディスクか？違うんです。ファカルティディベロップメントといって、簡単に言えば学校で言う校内研修会のことなんです。大学の中の言い方。だったら校内研修って言えてことです。でもそうは

言わない。

次に大学の生活について。先ほども話したように、担当科目、コース科目は5つ。TTオムニバス、この場合のTTは研究者教員の先生と私たちということ。メインで引っ張っていくのが研究者教員、オムニバスは前期・後期で15コマずつあるが、そのうちの何コマかを単独で担当する。たとえば、共通科目のICTを活用した教育の実践と課題では、15コマのうち私が2コマ担当している。最初の年は授業の準備が大変だったが、2年目3年目になると前年のものが使えるので、授業改善を考えながら進めて来ることができた。

大学に来て一番困ったのは、それまでは組織の一番上の方にいたので、必要なものがあるときに「主任さんこれを準備して」ということができたが、今日の講演の準備も含めて（ここを強調！）、全部自分で準備しなければならなかった。授業の準備はやはりすごく大変だった。「個人経営の店主だよ」ということで、組織の中で生きてきた私としてはきわめて大変。しかも、授業は90分。ということ、大学に行って女子学生と戯れているだけだろうと思っている皆さん、とんでもございませぬ。実は頑張っているところはちゃんと頑張っているんですよ。

担当科目以外で、教職大学院だけの授業でなくて学部生にも授業に出ている。「教職総合基礎」では秋田県の指針を紹介する授業を、また「教職実践演習」では教員になるための心構えを含め、不祥事防止を担当した。単純にオムニバスなので、1コマずつ。6月あたりから忙しくなるのは、教採対策として金曜日の最終コマ。4時10分からスタートす

る自主ゼミでは、それぞれテーマが決まっています。学生のグループと担当の教員がいる。学生に調べさせて、それを発表する。最後に指導の教員からコメントするというもの。月曜日にも同じようなコマが設けられている。月曜スタージュと言って論文対策や採用試験の説明だったりする。オータムキャンプというのが教員志望の3年次の学生を対象に行われる。採用試験の下準備や心構えから始まって、いろんなことをやる。スプリングキャンプは4年次で、実は昨日と今日がスプリングキャンプだった。昨日私も1コマもって、効果的な自己PRということと105分頑張ってきた。今日はつい先ほど10時半まで小論文対策と個人面接の指導をやってきた。そんなきわめて忙しい中、わざわざこの会に来たという心意気をご理解いただきたい。

今年度院を修了して今学校現場に行ってお世話になっている院生から「先生、校務分掌って授業でやってほしかった。」と言われた。校務分掌って意外とわからない。大学の授業ではカバーしきれない。やっぱり学校に行ってわかることがたくさんある。

メンター制という研修制度がある。メンターって何かというと、要するに指導力のある指導者たちが、簡単に言えば師匠みたいな人ということ、OJTと違って業務そのものだけを教え込むのではなく生活上の相談事であるとか立ち居振る舞いについても指導してくれる方、言い、指導を受ける方をメンティと言う。今教職大学院ではそこを考慮して、院生室を仮の職員室と想定。マネジメントコースの現職と、現職1年次とストマス2年次、1年次を混ぜて、同じ年次で固めていない。疑似職員室みたいにしてその中でメン

ター、メンティの関係を作るようにしている。このあと学校でも、その流れがきつと来る。なぜかというミドルリーダーが少なからず。絶対数が足りないからだ。本当に相談役として若手を育てていくメンター役の需要がこの後増えてくる。

（途中略）

学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制整備についてだが、中央教育審議会からの3つの答申を受けて体制を整備したとしても、最後は教育は人なりである。この「教育は人なり」という部分をどうやってカバーしていくかということとで考えられているのが、『教員育成指標』。国で基本方針を出してその後各都道府県で『教員育成指標』を作成している。

その中で教員研修の位置づけについては、本県における「若手教員の指導力向上」という課題に対応するため、これまで本県が実施してきた「初任者研修→授業力向上研修（採用3年目）→教職5年経験者研修→授業力向上研修2（採用8年目）→中堅教諭等資質向上研修（採用11年目）」のシステムを、育成指導の「第1ステージ（実践的指導力習得期）」から「第3ステージ（実践的指導力充実期）」に改めて位置づけ、確実に資質能力を向上させるとともに、採用から3年目までの第1ステージの研修を充実させることにより、若手教員の指導力向上を重点的に図っている。

この中で、大学としては「採用段階」と「養成段階」に関わってくる。高校段階からの教員養成の取り組みとして、「ミニミニ教育実習」いわゆるミニミニ教師体験を高校生対象に進める。たとえば小学校中学校で授業を経験させるというような取り組みを実践してい

る。高校段階から教員志望の人たちを、やがて秋田県の教員になるように丁寧丁寧に育てていく。それから、教職大学院の方でも大入学1年次から確実に6年間、教職大学院までという学生を選抜しようという動きもある。お医者さん並。「秋田県教員育成指標」、興味のある方はぜひ読んでもらいたい。

昨年度4年生対象に教職実践演習の授業をやった。「10年後の秋田県の小・中学校はどうなっているでしょうか？」さて。地区別に数字で見えていくと中央管内は61・5%。6割の教員が入れ替わる。これが現実です。どうなるんでしょうね。言うなれば、10年後30代のあなたが学校を背負っていかねばならないという話をした。背負ってほしいと。

つたないお話につきあっていたいてあげたがとうございました。

(拍手)
(文責 三條)

交流のどびろ



健康であることの幸せ

船木 ノリ

「十一年間至福の時間をありがとうございました。先生にはすくーるコミュニケーション時代から本当にお世話になりました。いつも母のことを気にかけていただき恐縮に存じております。私の数えきれない譜面には、ノリ先生の曲の解説が書かれております。勉強になり

ました。貴平先生、裕貴子先生のピアノは心にしました。とっても贅沢な時間を過ごさせていただきました。」

(原文から抜粋)

親の介護と仕事の都合で退会せざるを得なくなった会員からの手紙の一部である。

平成十五年度から四年間の「すくーるコミュニティ事業」(中央公民館の出前講座として川尻小学校音楽室にて)の講座修了後、歌い続けたい仲間が集い、当時の公民館長と主席主査に依頼し歌のサークルが誕生。続けて指導を担当することになった。そのサークルも今年もう十二年目になる。

時代を超えて歌い継がれてきた童謡、唱歌、歌曲、歌謡曲等、様々なジャンルの歌を歌っている。

人間関係が希薄で情報過多な現代、つい自分を見失いがちである。四季折々の歌を共に歌うことを通し、情緒豊かな日本の良さを感じ取りながら自分の声をとれどし、心と心が響き合い笑顔になり、新たな「生きる喜び」へとつながる。

微力な私ではあるが、その人たちの支えになればと思ひ活動を続けている。会員たちの歌声がさらに高まるように、夫と娘の本格ピアノ伴奏に助けてもらい、曲趣にひたりながら心地よく歌っている。

その夫が、一昨年一月「大動脈解離」で四週間の絶対安静。幸い命はとりとめたものの二か月は力仕事ができない。遊学舎における夫のそば打ち指導は、卒業生のOBたちが現役の支援に当たってくれた。歌の伴奏は、一回だけCDを鳴らして行つたが、全然気持ち乗らず皆沈んだ顔。娘にピアノ伴奏を受け持つてもらい難局を乗り越えた。

健康だけが取り柄だった私も、昨年「腰部脊柱管狭窄症」に。歌ったり指揮をしたりできるようなにはこれしかないと言われ、夏休みを利用して手術。幸い十日間で退院。その日のNHK交響楽団の演奏会に駆けつけるまでに回復。サークルは十月から復帰。四十代から八十代の会員が、始まりのテーマソングではか細い声が、終わりには堂々とした歌声と笑顔に変わっているのに毎回感動する。

おいしいそば作りを求めて集っている夫のサークル(今年で十五年目)では、卒業生が一〇二名。私は職種も年齢も違う現役二十名の指導をする夫の補助をしながら、今も元気をいただいている。

「歌」・「そば打ち」、それらを求めて集まる人たちと共に、私も夫も常に健康でかわり、絆を深めることのできる幸せをかみしめている。今日も、会員の歌声と笑顔を思い浮かべつつ、選曲に熱が入る。プログラムの表紙にはカメラに取り込んでいる季節の花の写真を添えて――。

(平成十四年三月退職)



更生保護の先覚「川村養助」
との出会いから

目黒 勵

退職後間もなく恩師の誘いで何も解らず保護司活動に参加することになった。刑務所や少年院から出てきた人を保護観察官と共に更正を助けること、地域の犯罪予防を図ることが主な活動だ。数年後に、更生保護活動を始

めたのが川村養助氏であり、更生保護の先覚として異色な足跡を残していることが分かった。しかし、当時、川村養助氏については更生保護関係者でもあまり知られていなかった事もあり、生意気にも調べてみようと考えた。

川村養助氏は元治元年、旧山本郡下岩川村字不動田の豪農に生まれ、代々名主を務める家柄であったと言われている。青少年期の記録は少なく不明な点が多いが、明治22年の町村合併時、突然下岩川村の2代目の村長として下岩川史に登場する。自由黨員として、新しい思想と信念で旧来の村政を打破すべく改革に取り組みと同時に、明治26年には県会議員にも立候補し、見事当選したのである。村長と県議を兼任し、住民の生活向上や文教面で数々の政策を提案し、実現させた。

この時が人生の絶頂期であったのかも知らない。翌、明治27年には地元の下岩川村から業務上横領と公文書偽造行使（村吏の事務上の過失）の疑いで告発されて、裁判の結果重禁固2年の判決により村長と県議を惜しまれながらも辞任する事になった。

そして、明治31年秋田監獄署に投獄されるが、ここで獄舎内の惨状と、出獄しても一般社会は厳しく、就職も拒まれる状態で、家庭の愛にも恵まれず自暴自棄になり再犯を繰り返している事を知り驚く。彼は、この時出獄人の救済を強く決意したものと思われる。明治33年の出獄に際し、典獄（刑務所長）は免囚保護の志のある彼に、東京出獄人保護所の免囚保護の代名詞とも言われる原胤昭氏を紹介した。キリスト教の精神に基づく免囚保護の理論と実践を学び帰省した。

間もなく、親類縁者の猛反対を押し切って、しかも先祖伝来の全財産を売り払い、明治33

年9月1日秋田出獄人保護所（現在は秋田至仁会）を秋田市川尻町に創設したのである。早速、免囚3人を引き取り、職につけ、寝食を共にする生活を始めた。当時は新聞でさえも免囚を「半禽獣」と掲載している程で、社会復帰は極端に困難な時代であった。

しかし、彼は猛然と立ち向かい免囚の救済に情熱を注ぎ、41歳の生涯を閉じるまで多くの免囚を引き取り、更正させ続けた。

今から100年余りも前、当時誰もが成し得なかった更生保護の礎を独力で秋田の地に築いた功績は大きく、永く語り継いでいかなければならないと思っている。

※免囚Ⅱ出獄人Ⅱ刑余者（平成十年三月退職）



年金の一部を年金維持への力に
原田 滋

退職して十二年間、私にも変わることなく生活の糧をくれているのが「年金」です。

退職直後の市退職校長会の会合で、当時県退職公務員連盟事務局長の佐良土惇氏から、退職公務員の生活を支えるのは「年金」、その年金制度維持に尽力しているのが退職公務員連盟だ。是非入会して協力を！の真剣な勧誘があり入会。今、事務局長を担っています。昭和二十年八月終戦。教員や公務員の退職者恩給は辛うじてあったものの、物価上昇のインフレのさなか、とろろ昆布一山十円（県退公連会長野中和郎氏談）の当時、その年金は月額わずか三十三円。とても生活などできるような金額ではなかった。

『昭和二十二年十月全国数県の恩給受給者

（主に教職員）が当時の代議士松原一彦氏（大分県選出）を文部省に訪ね恩給増額について協議し、首相官邸・衆参両院を歴訪陳情し、即日松原代議士事務所に「全国恩給増額促進期成同盟会事務所」の表札を掲げたのがこの動きの第一歩であり…」さらに、「昭和二十一年公布の恩給臨時特例による仮定俸給は極めて低額で不当なものだった。この特例廃止に加え、三回の不均衡是正と四回に渉るベースアップは本連盟の言語に絶する共闘の成果であって断じて棚ぼた式に待っている間に獲得できたものではないことを銘記して頂きたい」と結び、「退職公務員は一人残らず本連盟に入会の上恩給権の絶対確保とその改善のため団結せよ」と呼び掛けている。（昭和三十三年四月秋田県退職公務員連盟二代目会長高橋熊五郎氏記述より）

私たちの年金は、先輩公務員たちの七十年間の苦闘の成果です。

自分の生活のためにだけではなく、後輩公務員たちも安心して年金受給できるよう、その制度維持への運動のために、あなたの年金のほんの一部二千五百円をお貸し下さるよう、何とぞご入会を心よりお願いいたします。（平成十九年三月退職）



いねま、そつりいねかり
中 島 眞里子

五月晴れの昼下がり、BSTVで「布施明LIVE 70歳アニバーサルツアー」が放送されていました。古稀になられたというのに、彼の伸びやかな歌声は若い時と変わらず、

ファンにとって魅力の一つだと思います。ご本人の、年齢を重ねることでもわかってきた、より上手い歌い方に、これからも挑戦していきたいと笑顔で語られていたのが印象に残っています。

さて、自分のここ数年を振り返ってみますと、年度末、しかも定年退職前の大事な時期にインフルエンザに感染する始末で、大変恐縮するばかりでした。幸い同僚をはじめ多くの皆様の温かなご配慮により、無事に退職の日を迎えることができました。この上ない感謝の気持ちと同時に、子どもたちと過ごした学校生活が終わることに、安堵感と寂しさが押し寄せてきました。

しかし、感慨にひたっているのもつかの間、四月から新たな職場で生涯学習に関わる仕事をさせていただくことになりました。最初は電子システムに慣れず、子どもたちの声が届かない環境にも馴染めず、先行き不安の連続でした。担当の家庭教育学級の多くは六十代から八十代と人生の大先輩で、還暦の私が一番の若手です。そのような中、参加者が喜喜として学習会に臨み、意欲的に講師の方へ質問する姿に、自ら学び続けるという生涯学習の神髄にふれ、日々元気を頂戴しています。学習内容は、「世界遺産」や「財政」、「金融犯罪被害防止」等と幅広く、バスを使用した移動研修もあります。生活を豊かにし、役に立つ内容で、興味深く参加させていただいています。これからは、家庭教育学級の方々が、より一層楽しく充実した学習を進めることができるように仕事をさせていただきたいと思っています。

秋田市退職校長会におかれましても、皆様との交流を通して自分磨きに努めてまいりた

いと思います。よろしくお願い申し上げます。
(平成三十年三月退職)

作品紹介

「イラストレーション 春」

小笠原 京子

若い時分の鹿角の知人が、毎年大湯のストーンサークル近くで数万株のチューリップの花を咲かせて、見る人々を和ませている。今年は私も鑑賞。チューリップの色の鮮やかさ、形の面白さにどっぷり浸って、蝶になった気分で表現。

(平成十九年三月退職)



※会員のみなさんのご協力に深く感謝申し上げます。(編集委員一同)

○「楽しい研修会」へのご案内

昨年に引き続き「楽しい研修会」を開催し、会員の親睦を図りたいと思います。関心のあるもの、この機会にやってみようかなと思ったもの…など、お一人何回でも参加できますので、ぜひ、ご参加ください。

お申し込みは、別途「楽しい研修会へのお誘い」の各研修会「申込先」に電話でお申し込みください(Sメールも可)。その後、詳細を各担当からご案内いたします。

たくさんのご参加をお待ちしております。

①各駅停車の旅

「北の夜空に輝く

北斗七星の形に乗る」

(日帰り小旅行)



②アトリオンコンサート

「柳生和太・なまはげ

テューバ演奏会」

(主催：県&アトリオン)



③酒蔵探訪

「天の戸(浅舞酒造)の

名酒を飲む」



④企画展示、和綴じ、

工芸講座ほか

(主催：赤れんが郷土館)



⑤ゆる〜っくり走ろう

「スロージョギングで

健康維持」

